

山家村 F20 1940年

PARIS AYABE

SAICHI ARIMICHI

—— 渾身の画家 没後40年 有道 佐一 回顧展 ——

2023 AM10:00~PM4:30

4/5(水)~10(月)

●G&A/ガンゼ博物苑 集蔵 (京都府綾部市青野町 TEL0773-43-1050) ●入場料

500円 ※チケット、会場販売あります
高校生以下無料





洋行帰り 山家駅にて 昭和11(1936)年
佐一がフランス留学から帰国したとき、
山家駅では白波瀬萬助村長はじめ多くの人たちに
出迎えられた。



綾部で初めての個展の打ち上げの様子
山家・料理旅館 いがやにて
(中央二人が有道佐一先生ご夫妻)
昭和54(1979)年11月15日

没後40周年記念回顧展を開催するにあたり、3人の方に思い出をお聞きしました。

—野崎さん、四方さん、有道先生との出会いはどんな場面でしたか？

野崎；光風会の先輩の原田正義さん（京丹波町・故人）は有道先生を心から崇拝しておられました。

1975年ごろ、その原田さんと一緒にお会いした時、「自尊心を持って、こびたり、へつらったりみじめなことをするな」といわれたことを覚えています。1979年の個展から今まで学びながらお手伝いさせていただきました。

四方；私は1978年の5月にUターン、8月の選挙で市議になりました。当時、読売新聞の記者として長く綾部におられた大西さん（故人）から「綾部に有道佐一というどえらい画家がおられるが綾部市民は殆どその絵をみていない。個展を頼んでも断られる。幻の画家なんだ」ということを聞きました。「よし、それなら綾部で個展を実現させよう」と思って、ご長男の大作さん、和知の原田正義さんと一緒にお会いして「是非、綾部の人に先生の絵を見せてほしい」と懇願しました。すると、にこっと笑ってあっさり承諾していただきました。その後、個展の前に新生時報（市民新聞の前身）の「人をたずねて」に有道先生を2回にわたって取り上げさせていただきました。凛とした中に慈父のような温かさがありました。

—綾部で初めての個展はどうでしたか？

四方；商工会議所のホール（三ツ丸跡）でやったのですがものすごい反響でした。新聞も大きく取り上げていただき、6日間で3600人という人に来ていただきました。発起人も羽室市長、田中文協会長、福井商議所会頭など総結集していただきました。入場料は今回と同じく500円でした。

有道；親父（佐一）がテーブルカットに参加したり、いがや（東山町）でやってもらった打ち上げの席にあんなに喜んで出るとは正直、予想外でした。その前年に東京の資生堂ギャラリーでやってもらった時は顔も出さなかったのですから。

—有道先生の略歴は、このチラシの裏面に載せておりますが画家として身を立てることになったきっかけは何だったのでしょうか？

有道；小さいころから絵は得意だったようですが、山家へ写生旅行に来られた鹿子木孟郎画伯（関西美術院長）に声をかけられ書生として画業に取り組みました。

—そして1935年、新聞社の支援でヨーロッパへ行かれたんですね。

有道；パリでスイスの彫刻家・画家として有名だったジャコメッティに声をかけられ、サロン・チュイルリーに推挙されました。

—神戸港に出迎えた小磯良平が東京へ行こうと誘ったのを断って山家に籠られましたね。

有道佐一先生を偲んで



特別記念鼎談

四方八洲男

元綾部市長・実行委員会常任顧問

綾部の至宝・幻の画家



画室にて
(パリから山家へ帰り画室を新築)
昭和16(1941)年頃

有道：その心境を聞いたことはありませんが、親父は鹿子木画伯に師事していたころから派閥があり、名誉と金でどろどろしていた画壇に愛想が尽きていたのではと思います。

——以来、山家のアトリエで画業に専念されることになりましたね。

有道：朝早くから夜遅くまでひたすら絵筆を握っていました。綾部・福知山・東京で有道会という後援組織をつくっていただいております。芦田均さん(元首相)も福知山へ帰郷されたときはよくお越しになっていただいておりますし、府知事の赤松小寅さん、木村惇さん、蜷川虎三さんも来て頂いていました。そのご縁で1951年京都の大丸で個展をやっていただいております。そのあとNHKラジオで須田国太郎画伯に「近頃、真に画家と言えるのは坂本繁二郎と有道佐一だけである。」と述べていただきました。

——有道先生は売るために描いているのではない。という信念を持っておられたようですが、多少は手放しておられたのでしょうか。

有道：よほどのことがないかぎり売ろうとはしませんでした。しかし、埼玉県熊谷市の八木橋百貨店の八木橋豊吉さんが朝から翌日明け方まで何度も来られ、根負けしてかなりの数の絵をお分けしたようです。しかし、親父は自分から個展をやるということは生涯ありませんでした。佐藤尚武さん(元フランス大使)や有田八郎さん(元外相)などが東京丸の内の日本工業倶楽部でやっていただいたのが最初で、後は京都大丸、資生堂、セントラル美術館、そして四方さんや原



山家村を描く佐一 昭和15(1940)年
東山公園の対岸 山家城址公園への上り口を少し上がったところから上林川の下流側を描いた景色

田さん、野崎さんにお世話になった綾部での3回と京都文化博物館ぐらいいです。若い人もぜひ観てください。

——今回、没後40年ということで12年ぶりに綾部で個展をやることになりました。

野崎：感慨深いものがあります。私は若いころ暗い絵を描いていました。しかし、有道先生の「山家村」という絵を見て明るいものを描きたいと思うようになりました。山家でひたすら自然を描き続けられた先生の絵をたくさんの人に見てほしいですね。

四方：不特定の人には売らない。分散させないという不動の信念があればこそ、考えられない程のたくさんの作品を残していただきました。至宝ともいふべき有道先生の作品を見てもらうこと、こんなに嬉しいことはありません。小、中、高生の皆さんもぜひお越しください。

有道：自宅で微笑みを浮かべて、1983年2月10日、他界した親父も皆さんのご厚情に感謝しております。生涯、厳しい生活ながら信念を通した故人を偲んでやっていただければ幸甚でございます。

絵具をムダなく使いきったキレイなパレット
使い込まれたパレットナイフは鋭利な
刃物のようにすりへっている



野崎義典 ・ 有道大作

画家・光風会・実行委員長

佐一長男・実行委員会常任顧問

有道佐一独自の境地を拓く



陽光に光り輝く木の葉の一枚一枚、生き生きと命溢れる丹波の自然を描いた佐一の絵の圧倒的な迫力の前に思わず自らの人生を問い直す。

一点の妥協も許さず、すべてを描き尽くさずにはおかないという気迫、故郷の豊かな自然に培われた人間性、そしてその奥にある魂から噴出する思いが作品に表れている。

これでもか！これでもか！と生涯描き続けた、ひたむきな真摯な、この凄まじい情熱が、多くの人々に感動を与えるのであろう。

一つの石ころでも
心をしづめて見ていると
実に何とも云へぬ
なつかしさを覚えて来る
有難さが感じられる
大宇宙の心と一つになりきった様な
やり場のない力が湧いてくる
あの木の肌を
あの石ころの面を
眼を閉じて撫でさすりたくなる
神のふところ深くはいり得た
歎びに浸りきる
そして
そのよろこびを
記録せねば止み難い一念から
ひたむきに描き続ける
(昭和十五年三月有連会発行「石ころ」第一号より)



経歴

明治 29 (1895) 年 京都府何鹿郡志賀郷村に生まれた有道佐一は、鹿子木孟郎画伯に認められその弟子になる。昭和 10 (1935) 年渡仏、20 世紀の前衛的彫刻家・ジャコメッティに見出され、マチス等も会員に名をつらねていた【サロン・チュイルリー】の客員に推される。

昭和 11 (1936) 年に帰国後は、画壇の第一線での活動を拒み、綾部市山家にこもった後は、昭和 58 (1983) 年に没するまで、ひたすら丹波の自然を描き続けた。

パリ時代の作品は、折からの前衛的芸術運動の真っ只中にありながら静謐感の漂う画風で当時のパリの光と風を描いたものが多い。

山家ではこの地の山と川、自然をモチーフにした制作に没頭し、油絵にとどまらず日本画、水墨画、書にまで新しい境地を拓いた。

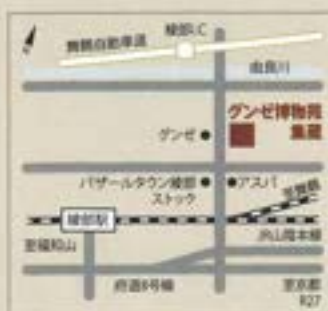
●チケット販売/あやべ観光案内所・山家公民館・はとや文具店・ギャラリーカフェ日々・宗右衛門珈琲・(有)有明オート・ドッグレンズ

●お問合せ/TEL(0773)42-5850 (実行委員長 野崎 義典)
TEL(0773)42-5162 (事務局長 荒木 敏文)

●主催/有道佐一回顧展実行委員会
●後援/綾部市・綾部商工会議所・綾部市教育委員会・綾部市文化協会・綾部市観光協会・綾部市議会・綾部青年会議所・綾部市老人クラブ連合会・京都あやべ会・山家地区自治会連合会・京都新聞・朝日新聞舞鶴支局・産経新聞舞鶴支局・毎日新聞京都支局・あやべ市民新聞・KB5京都・エフエムあやべ

主な個展の開催

昭和 15 (1940) 年	東京	丸の内	日本工業倶楽部
昭和 26 (1951) 年	京都	四条	大丸デパート
昭和 46 (1971) 年	東京	銀座	資生堂ギャラリー
昭和 54 (1979) 年	東京	銀座	セントラル美術館
昭和 54 (1979) 年	綾部		綾部商工会議所
平成 8 (1996) 年	綾部		グンゼ博物館 集蔵
平成 9 (1997) 年	京都		京都文化博物館
平成 23 (2011) 年	綾部		グンゼ博物館 集蔵



JR山陰本線 綾部駅から徒歩10分
舞鶴自動車道 綾部ICから車で約5分

▼詳しくはこちらをご覧ください



●ホームページ

